



市民活動の 新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地です。野を広げている。ファイザーではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれずに、活動のユークラスと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2002年度の助成対象となった各プロジェクト（左頁参照）を中心に、9回連続（今回は最終回）でレポートする。



写真上/オープンしたばかりのコミュニティレストラン「とらい」で、駐車場の看板をつくっているスタッフ。チラシも含めてほとんどが手作りだ。写真右/事務局長の横田能洋さん



特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コムズ 青年とまちの人とがふれあう場 「とらいスペース」の開設

(茨城県)

新たなトライの第二步。 実践的な業務を通して、 さまざまな経験を積む

「茨城県内でNPOを立ち上げたい人、あるいはNPOを支援したい人を増やし、両者を結びつけて地域の市民活動の発展に寄与する」ことが、98年開設以来、茨城NPOセンター・コムズが持ち続けてきた基本的な活動姿勢である。

具体的には「NPOを作るにはどうすればいいか」といった初歩的な相談から、NPOの担い手やスタッフの育成や派遣、「NPOと協働で社会貢献したい」という企業や市民団体からの要請に連携できるNPOを紹介したり、企画や運営をコーディネートしたりする。つまり県内のあらゆるNPO活動を、さまざまな面から支援するNPO法人なのだ。そのための月刊情報紙『茨城NPO情報』も発行している。

そうした活動の中から生まれてきたのが、この2月に開設した「とらいスペース」である。水戸市の繁華街の一角にあるこの施設は、ビルの隣り合った2フロアを借りて、一つはコミュニティレストラン、もう一つは事務所になっている。この2つのフロアは青年をサポートするスペースでもある。

青年サポートスペースは、何らかの理由で家にひきこもりがちで10代後半以上の青年を対象とした出会いと実践的な社会経験の場でもある。とくに「青年」としたのは「家にひきこもっていた人がフリースクールまでは出てくるようになっても、そこから先の受け皿がない。そういう人たち、ここで職員やボランティアの人たちと一緒にNPOの業務を手伝いながら、さらに一歩進んで社会に出ていくための経験を積んでほしい」



コミュニティレストラン「とらい」。日替わりのランチやお弁当も人気だ

（横田事務局長）ということにある。実際、コミュニティレストラン「とらい」では、一般就労に不安がある人たちがスタッフの一員として働いたり、週に数度、事務作業をしに来ている。ちなみにレストランではランチ、デザイナーのほか、弁当の注文も受け付けていて、野菜などの材料は地元の有機農法農園から直接仕入れてくる。

「今後の展開としては、とらいスペースを軸に保育・レスパイト事業、立ち上げ期のNPOが共同で使える事務所の提供など、実践的な活動を通して地域社会と「青年」たちがふれ合いながら、人材や組織を育てていける場を創り出していきたい」と横田さん。その名のとおり、社会への新たなトライのための基地が「とらいスペース」なのだ。

**2002年度
助成対象プロジェクトの
団体名・活動内容・
主な活動地域**

1	重度知的障害者の 「ファイザー」プログラムの創設 特定非営利活動法人 障害者家族地域生活支援事業所 フリアムト勝(北海道)
2	精神障害回復者 小規模共同作業所マップ 特定非営利活動法人 札幌作連(北海道)
3	商店街で活動する精神障害者の ピアサポート支援事業 特定非営利活動法人 SAN Net青森(青森県)
4	青年とまちの人とがふれあう場 「とらいスペース」の開設 特定非営利活動法人茨城NPO センター・commons(茨城県)
5	ひきこもり当事者による 雑誌発行プロジェクト 特定非営利活動法人 東京シュレ(東京都)
6	女性アルコール依存症者 サポートセンター事業 特定非営利活動法人 ジャパンマック(東京都)
7	ミヤマーノドーボン郡区 障害者支援事業 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン(東京都)
8	プライマリヘルスケア・アプローチ による路上死のない街へ 新宿連絡会医療班(東京都)
9	摂食障害者の自立と成長のための ピアサポート事業 日本アパルキシア・アミア協会 (東京都)
10	病気の子ども支援のための 情報発信とネットワーク構築事業 病気子どもネット・京都(京都府)
11	知的障害者の性の ワークショップ事業 特定非営利活動法人エンパワメント ・プランニング協会(大阪府)
12	小児がん患者、家族の 精神的サポート体制の確立事業 特定非営利活動法人 エスビュロー(兵庫県)
13	精神障害者ピアヘルパー等 養成事業 兵庫県高齢者生活協同組合 (兵庫県)
14	在日外国人高齢者の地域における 居場所づくり事業 神戸定住外国人支援センター (兵庫県)
15	芸術とヘルスケアの関わりによる まちづくり事業 アートステーションどんごや(宮崎県)

*他に、12団体が継続助成対象としてプロジェクトを行なっています。

**【ファイザープログラム】
心とからだのヘルスケアに
関する市民活動支援**

2003年度 募集要項

1. 募集期間: 2003年6月16日～7月18日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2004年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
→おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療が受けられない人たちの心身のケアを支援する活動
→外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人たちが対象とするもの
 - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
→身体障害、知的障害、精神障害などの人たち、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先:
ファイザープログラム事務局
プログラムの詳細は、こちら
<http://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/philanthropy>



写真上/回復途中にある女性スタッフによる電話相談。家族からの相談も多いという。当事者でなければわからない治療・回復の経験が生かされている
写真右/担当理事の武澤さん(左)と事務局の椎崎さん



**特定非営利活動法人 ジャパンマック
女性アルコール依存症者
サポートセンター事業
(東京都)**

**女性アルコール依存症者に
対するサポートは、
分かち合える仲間で**

今年6月、東京・杉並に日本で初めての女性アルコール依存症者のためのサポートセンターが誕生した。建坪約270㎡、3階建てで8DKのスペースには、定員10名の居室とダイニングルーム、バス・トイレ、事務室がある。「背景には、アルコール依存

の場合、まず女性依存者に対するサポートの手が少なくないということがあります。治療プログラム自体がほとんど男性向けにできている。たとえば、隊列を組んで歩く行軍のように何がなんでも頑張らなきゃいけないというような内容で、女性には体力的にも精神的にもついていけないものが多い。さまざま問題点があることも男性の職員には理解できない。また、複合的な婦人保護施設もあるのですが、アルコール依存症の人をあまり受け入れようとしていない。要望の多

いナイトケアをするための宿泊施設も東京にはない。あまりにも社会資源が整っていないものだから、少しでも問題解決の糸口になるようなものができればということを開設計しました」と、ジャパンマック担当理事の武澤次郎氏。ジャパンマックは、25年前アメリカ人神父が自らのアルコール依存症の治療体験をもとに日本で治療・回復の助けをしようということで作成された「みのわマック」が前身。02年2月に発展的な援助をめざして名称を変更、全国にある関連グループ施設とも連携した活動を展開している。

サポーターの名前は「HANA(オハナ)」。ハワイ語で「家族」を表す。ハワイにはアルコール依存症者の施設があつて見学者も多く、親しみやすく温かいイメージを込めてつけられたという。

運営の基本は、女性が女性を援助していくこと。アルコール依存症の問題は生き方の問題につながり、援助とかサポートとか根本的なところでは、やはり女性でなければわからないことがあるからだ。「飲んでいた時の生き方ではなく、新しい生き方という思いでやっています。肉親以上に分かち合える仲間として一人でも多くの女性のためにお手伝いができれば……」と、女性スタッフの声が力強く響いている。

今のところスタッフは、常勤で回復途中にある女性当事者と元キャンブル依存症の女性などのボランティアを中心に、福祉関係の専門家や医師などがサポーターとして加わる。毎週水曜、土曜の2日間、電話相談と予約による来所相談、専門家や女性依存症者が参加する女性だけのクロージング・ミーティングなどが行われている。今後、女性に合ったプログラムを追加していく計画だ。